

NX7700x/A7010E-2、A7010E-2c、A7012M-2 ご使用時の注意事項

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本製品のご使用にあたり、ご注意くださいことがあります。誠にそれ入りますが、ご使用前に下記内容を必ずご一読ください。

なお、本書は必要なときにすぐに参照できるよう大切に保管してください。

- 1) はじめに
- 2) 装置起動時に関する注意事項
- 3) システムROMの機能に関する注意事項
- 4) iLO 6の機能に関する注意事項
- 5) OSに関する注意事項
- 6) 全般の機能に関わる注意事項

1) はじめに

● 本製品のマニュアルについて

本製品に関する詳細は、以下のWebサイトに掲載しているマニュアルに記載しています。
ご購入頂いた型番で、製品マニュアルをご検索ください。

<https://jpn.nec.com/nx7700x/>

また、ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentService、エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS)/エクスプレス通報サービス(MG)に関しては、

ESMPRO 日本語ポータルサイト<<https://jpn.nec.com/esmsm/>>

NEC サポートポータル<<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010102124>>

の最新の情報およびバージョンをご確認のうえ、ご利用ください。

● Starter Pack について

本製品で使用する Starter Pack は、以下のWebサイトに最新版が掲載されています。
本体装置購入時に合わせて購入されていない場合はダウンロードして適用してください。

<https://jpn.nec.com/nx7700x/>

([技術サポート情報・ダウンロード] - [ドライバー、ユーティリティ関連の物件] のページの StarterPack の項を参照)

なお、使用する StarterPack については、別途Web公開している「OS と Starter Pack の対応」を参照ください。

<https://jpn.nec.com/nx7700x/support/index.html?>

対象装置のマニュアルを参照願います。

● VMware ESXi/ESX のドライバ・サービスモジュールについて

本製品で使用する VMware ESXi/ESX のドライバ・サービスモジュールは、以下のWebサイトに最新版が掲載されています。Webサイトに掲載されている内容を確認し、適切なバージョンを適用してください。

1. Agentless Management Service および iLO Channel Interface Driver

<https://jpn.nec.com/nx7700x/>

([技術サポート情報・ダウンロード] - [ドライバー、ユーティリティ関連の物件] のページの ユーティリティの項を参照)

2. WBEM プロバイダ / CLI ツールおよび MegaRAID ユーティリティ (StorCLI)

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3010101744>

(「エンタープライズサーバ(NX7700x シリーズ)」を参照)

3. VMware ESXi/ESX デバイスドライバ

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140105866>

(「エンタープライズサーバ(NX7700x シリーズ)」から対象OSの「デバイスドライバー一覧」を選択)

2) 装置起動時に関する注意事項

● 「Memory Initialization - Start」のメッセージでPOST停止した場合の対処について

本体装置の電源投入後、「Memory Initialization - Start」のメッセージで、まれにPOST 停止することがあります。本現象発生時は、以下の手順で復旧してください。

1. 本体前面の電源スイッチ(または、iLO の Web インターフェースにある Power アイコン)を 4 秒以上長押しして、本体装置の電源をオフにします。
2. 本体前面の電源スイッチ(または、iLO の Web インターフェースにある Power アイコン)を押して、本体装置の電源をオンにした後、正常に起動する事を確認してください。

現象発生時の POST メッセージ

```
NEC NX7700x System BIOS UXX vY.ZZ (mm/dd/yyyy)
Early system initialization, please wait...
System Chipset initialization
UPI Link initialization - Start
UPI Link initialization - Complete
Early Processor initialization
Memory initialization - Start
```

3) システムROMの機能に関する注意事項

● Intel (R) QuickAssist Technologyについて

以下のCPUを搭載したシステムにおいて、v1.46のシステムROMバージョンを使用している場合、CPU2側のIntel (R) QuickAssist Technology機能は利用できません。

対象CPU:

NE3301-1851/1851L	CPUボード(32C/2.80GHz/Platinum 8462Y+)
NE3301-1842/1842L	CPUボード(8C/2.90GHz/Gold 5415+)
NE3301-1844/1844L	CPUボード(28C/2GHz/Gold 5420+)
NE3301-1841	CPUボード(20C/2GHz/Silver 4416+)

Intel (R) QuickAssist Technology機能を利用するためには、システムROMをv2.16以降にアップデートする必要があります。

● PCIe SlotのLink Speed設定について

システムROMバージョン2.32未満の場合、下記のPCIe SlotについてPCIe Link Speed (*1)を変更してもLink Speedに反映されません。

常に最大Link Speedで動作します。

A7010E-2c : PCIe Slot 3
A7010E-2/A7012M-2 : PCIe Slot 4/5/6

(*1) PCIe Link Speed 設定メニュー

BIOS/Platform Configuration (RBSU) > PCIe Device Configuration > PCIe Slot X : "Device名" > PCIe Link Speed : **【Auto】** / PCIe Generation 1.0 / PCIe Generation 2.0 / PCIe Generation 3.0

PCIe Slot X : A7010E-2cはPCIe Slot 3、A7010E-2/A7012M-2はPCIe Slot 4/5/6

"Device名" : 実装されるPCIe Deviceによって表示が変わります。

PCIe Link Speed : デフォルト設定は【Auto】です。設定変更は行わないでください。

実装されるPCIe Deviceによって、選択可能なPCIe Generation 1.0/2.0/3.0は変わります。

システムROMバージョン2.32では、この問題が修正されています。

● View IMLに関する注意事項

次の条件を満たしたシステムにおいて、システムユーティリティのView IML機能(*1)は使用しないでください。

- ・ システムROM v2.16未満

かつ

- ・ RAIDコントローラ(NE3303-243/245/243L/245L)を搭載(Firmware Version 5.61)

上記条件を満たした状態でView IML機能を使用すると、RSoD (Red Screen of Death)が発生します。

そのため、IMLログを表示する場合は、iLO Web インターフェース(*2)を使用してください。

なお、RSoDが発生した場合には、システムの復旧のために電源をOff/Onにする必要があります。

(*1) System Utilities > Embedded Applications > Integrated Management Log (IML)

(*2) iLO Web インターフェース : [Information] - [Integrated Management Log]

● 工場出荷時の設定について

2024年7月8日出荷装置より、下記項目の出荷時設定を変更しています。

System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Processor Options >
Processor x2APIC Support : **【Auto】** → **【Force Enabled】**

本設定により、高コア数のCPUをご使用時に、オペレーティングシステムをより効率的に実行できるようになります。

2024年7月8日より前に本機を購入されたお客様は、上記設定に変更してください。

● POST メッセージコード” 5445” について

POST (Power on Self Test)において、下記のようなメッセージを表示される場合があります。
本現象は、装置の機能、性能に影響はございません。

```
5445 - Newer Firmware Version - Processor 1. The processor's PCode firmware  
(10000000) version is newer than the images available in the current BIOS.  
Action: Update to the latest BIOS.
```

● UEFI Boot Order Control の注意事項

システムROMバージョン 2.32の場合、UEFI Boot Order Control メニュー(*1)で新たなブートデバイスの有効化、または無効化の設定や保存ができません。
回避策として、ブートデバイスの起動優先順位を変更することで、希望のブートデバイスを選択できます。

ブートデバイスの起動優先順位を変更する際は、UEFI Boot Order メニュー(*2)にて行ってください。
また、UEFI Boot Order メニューまたはUEFI Boot Order Control メニューに移動するたびに、画面下段にある“Changes Pending”文字列の前に赤い◎が表示されます。
必要に応じてF10 キーを押下し、設定の保存を行ってください。

- (*1) BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Boot Options > UEFI Boot Order Control
- (*2) BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Boot Options > UEFI Boot Order

システムROMバージョン 2.44では、この問題が修正されています。

● RBSUにてEmbedded LOM をDisabledに設定し、設定を保存すると装置がまれにハングアップする

システムROMバージョン 2.60未満の場合、RBSUでEmbedded LOM(*)をDisabledに設定しないでください。(出荷時設定はAutoです。)

Embedded LOM をDisabledに設定し、<F10>キーまたは<F12>キーを押下して「Do you want to save changes?」のポップアップ表示のあと設定を保存すると、装置がまれにハングアップすることがあります。

もし、ハングアップした場合、iLO Web インターフェースで電源ボタンをクリックし、プルダウンメニューの最下段の「リセット」をクリックすることにより、正常に起動します。

その際、Embedded LOM 1 > PCIe Device Disable オプションはDisabledに設定されていますので、設定をAutoに戻し、保存してください。

- (*) 「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > RBSU > PCIe Device Configuration > Embedded LOM 1 > PCIe Device Disable」

システムROMバージョン 2.60 では、この問題が修正されています。

4) iLO 6 の機能に関する注意事項

● iLOの再起動を行う場合の注意事項

以下に示すタイミングにおいては、iLO の再起動を行わないでください。

- ・サーバ起動から OS の起動完了までの間 (POST 実行中も含む)。
- ・システムユーティリティの操作途中。

該当タイミングで iLO の再起動を行うと、予期しない動作を引き起こす可能性があります。

例えば、POST 実行中に iLO の再起動を行うと、iLO Web インターフェース : [Information] - [Overview] ページにおける UUID、UID (論理) の表示が不正な値となる場合があります。また、システムユーティリティの設定変更 など操作の途中で iLO の再起動 (※) を行うと、直後のシステム再起動処理 (Reboot) が正常に実行されない場合や、本体装置に記録されている Serial Number、Product ID などの設定情報が消失してしまう場合があります。

もし、上記のような不正な表示や動作が発生した場合は、本体装置の電源をオフにし、再度オンにしてください。

<対象となる iLO の再起動の方法>

- ・ iLO Web インターフェースなどを利用したネットワーク経由での iLO の再起動。
- ・ UID スイッチを使用した iLO の再起動。


※ システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での設定変更後の iLO の再起動については、本書の「システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項」を参照して操作してください。

● iLO のダウングレードポリシー機能の注意事項

iLO の拡張ライセンスがインストールされている場合、[Security] - [Access Settings] - [Update Service] - [Downgrade Policy] の設定を『Permanently disallow downgrades』に変更しないでください。

『Permanently disallow downgrades』に設定した場合、ファームウェアのダウングレードを行うことができなくなります。また、本設定は一度設定を行うと永続的に保持されるため、Set to factory defaults オプションから iLO を出荷時のデフォルト設定にリセットを実行した場合でも、その他の iLO の各種インターフェースや各種ユーティリティから本設定を実施した場合でも、『Permanently disallow downgrades』設定は維持されます。

● iLO Web インターフェースのセキュリティアイコンに関する注意事項

iLO Web インターフェースの [Information] - [Security Dashboard] および iLO Web インターフェース画面の右上部に  リスクが表示される場合があります。

RBSU の設定や iLO の設定の内容によって、iLO セキュリティの状態がリスク状態 (赤色) で表示されますので、お客様のセキュリティポリシーに応じてセキュリティの対処を行ってください。

推奨値などの詳細については、iLO 6 ユーザーズガイドを参照してください。

ただし、『Require Host Authentication』設定については、本書内の「iLO Web インターフェースの [ホスト認証が必要] 設定における注意事項」に記載がありますので、ご確認ください。

iLO の負荷の状態により [Information] - [Security Dashboard] の”全体セキュリティステータス”が『リスク』であっても、iLO Web インターフェース画面の右上部の”iLO セキュリティ”アイコンが無色になる場合があります。[Information] - [Security Dashboard] の”全体セキュリティステータス”が現在のセキュリティ状態を示します。

● iLO の時刻設定について

iLO の時刻設定については、適切な時刻補正を行うために、iLO Web インターフェースにて SNTP の設定を行い、NTP サーバを利用した定期的な時刻の自動補正が行える状態でご使用いただくことを推奨します。

iLO の SNTP の設定方法については、iLO 6 ユーザーズガイドを参照してください。

● iLO6 バージョン 1.41 以下におけるリストア操作についての注意事項

iLO6 バージョン 1.41 以下が適用された環境で、iLO Web インターフェース : [Lifecycle Management] - [Backup & Restore] ページにおいて、iLO6 バージョン 1.41 以下でバックアップしたファイルを用いてリストアを行うと、「ファイルが正常にアップロードされませんでした。後でもう一度試してください。」のエラーメッセージが表示されます。

iLO6 バージョン 1.41 以下でバックアップしたファイルを用いてリストアする場合は、事前に iLO6 バージョン 1.52 以降のファームウェアにアップデートし、アップデート後にリストア操作を行ってください。

● iLO Web インターフェースの[ホスト認証が必要]設定における注意事項

[Security] - [Access Setting] - [iLO]にある[ホスト認証が必要/Require Host Authentication]を『有効』に設定しないでください。

『有効』に設定を行った場合、次に示す状況が発生します。

- ・ESMPRO/ServerManagerのアラートビューアに、“Remote Insight/Integrated Lights-Out 認証されないログイン試行検出”のメッセージが多数表示されます。
- ・Starter Pack (Standard Program Package)を適用するとエラーが発生します。

また、次のサービスや機能をご利用頂けません。

- ・エクスプレス通報サービスにおいてハードウェア障害に関する通報
- ・RAID 通報サービス
- ・サーバ診断カルテのハードウェア診断機能
- ・iLOが収集するハードウェアに関するデバイス情報や設定情報の参照、およびイベントログ採取機能

NIST SP800-193 運用環境を構築される場合は、以下の URL に掲載された運用手引きを参照し、OS 環境構築後、NEC iLO アカウント登録ツールをインストールの上、『有効』に設定するようにしてください。

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?NoClear=on&id=3140109677>
→「NIST SP 800-193 準拠 運用構築手引き」

● ネットワークブリッジ構成時のiLO Webインターフェースのネットワーク情報の表示について

ネットワークをブリッジ設定で構成してご使用の場合、iLO Webインターフェースの[Information] - [Network] - [Physical Network Adapters]に表示される内容がOS上の内容と一致しない場合があります。ブリッジ情報の詳細は、OS上のネットワークアダプタのプロパティにてご確認ください。

● RESTful API ERRORが発生した場合の対処について

POST実行中、稀にRESTful API Errorが発生し、Integrated Management Log (IML)に記録されることがあります。本イベントが記録された場合、各種監視ソフトウェア(※)からのiLOへのアクセスが正しく行えないことがあるため、iLOの再起動を実施してください。

※ ESMPRO/ServerAgentService、RAID通報サービス、サーバ診断カルテ、装置情報収集ユーティリティ

● iLO Web インターフェースのAgentless Management Service (AMS) のステータスについて

iLO Web インターフェースの[System Information] - [Summary] - [Subsystem and Devices]のAgentless Management Service (AMS)のステータスにおいて、不明(または利用不可能)※と表示された場合、iLO リセットを行ってください。また、その後、10分程度経過した後、以下のAgentless Management Service (AMS)の再起動方法の対象OSを参考に、Agentless Management Service (AMS)を再起動してください。

< Agentless Management Service (AMS) の再起動方法 >

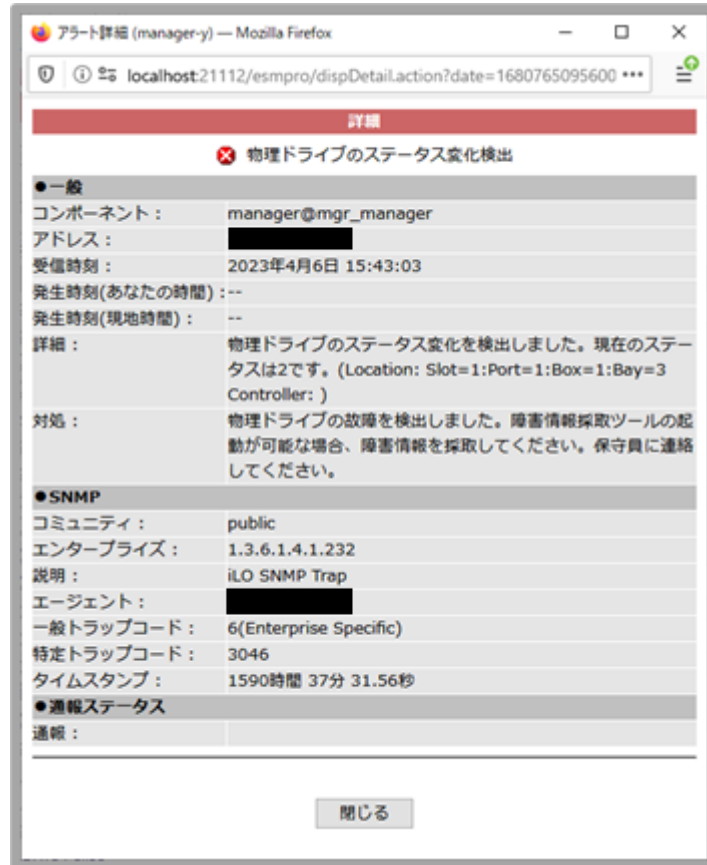
- ・ Windows の場合
Windows の管理ツール → サービス → “Agentless Management Service” を右クリックし、再起動してください。
- ・ Red Hat Enterprise Linux 8.x/9.x の場合
以下のコマンドを実行します。
systemctl restart smad
systemctl restart amsd
- ・ ESXi7.0/8.0、ESX9.0 の場合
以下のコマンドを実行します。
/etc/init.d/amsv restart

※ Agentless Management Service (AMS) のステータスが不明(または利用不可能)の状態の場合、iLO Web インターフェースの[System Information] - [Storage] や [Network] の一部の情報が取得できず、正しく表示されません。

● 物理ドライブの通報に関する注意事項

論理ドライブを構成した物理ドライブを取り外した際、物理ドライブ故障のエキスプレス通報が通知されません。また、ESMPRO/ServerManagerアラートビューアにおいて、「物理ドライブのステータス変化検出」が通知されますが、詳細欄のステータス値が「3」ではなく、「2」が表示されます。

※ステータス値の「2」は正常(OK)、「3」は異常(failed)を示します。



● iLO 連携グループ ファームウェア アップデート機能が利用できない件について

本機能は、iLO 6 ファームウェア : 1.52 以降でサポートしております。

iLO 6 ファームウェア : 1.41 の環境において、iLO Web インターフェースの[iLO 連携]-[グループファームウェアアップデート]ページを開いたとき、以下のような「呼び出しに失敗しました」というメッセージが表示され、機能を利用することができません。



※文章と画像は将来変更の可能性があります。

● RAID コントローラ (SR) 構成時の RESTful API での RAID コントローラ情報に関する注意事項

iLO6 ファームウェアバージョン 1.64 以降 1.70 未満をご使用の場合:

下記の RAID コントローラ (SR) に特定のファームウェアが適用されている場合、iLO RESTful API で下記の Redfish リソース情報を取得すると、返却される JSON データ中の PCIeFunctions 配列内の @odata.id に正しいリンク情報が表示されずエラーを示す "F0" が表示され、RAID コントローラに関する PCI 機能の参照ができません。

RAID コントローラの PCI 機能を確認したい場合は、Smart Storage Administrator から PCI 機能を参照してください。

■ 対象 RAID カードおよび RAID ファームウェアバージョン

NE3303-243/243L	: RAID ファームウェアバージョン	7.11/7.43
NE3303-244/244L	: RAID ファームウェアバージョン	03.01.30.106/03.01.33.044
NE3303-245/245L	: RAID ファームウェアバージョン	7.11/7.43
NE3303-246/246L	: RAID ファームウェアバージョン	03.01.30.106/03.01.33.044

■ 対象 Redfish リソース

/redfish/v1/Systems/1/Storage/{controller ID}/Controllers/0

■ 返却される JSON データ (該当箇所)

```
"PCIeFunctions": [  
  {  
    "@odata.id": "F0"  
  }  
],
```

● 仮想シリアルコンソールに関する注意事項

iLO6 ファームウェアバージョン 1.64 をご使用の場合:

仮想シリアルポートログ over CLI 設定を有効にした後、SMASH-CLP からテキストベースの仮想シリアルコンソールを起動しても何も表示されません。

■ 仮想シリアルコンソール起動コマンド

vsp または start /system1/oemNEC_vsp1

仮想シリアルポートログ over CLI を無効から有効に設定変更後、仮想シリアルコンソールに何も表示されなくなった場合、BMC 構成ユーティリティより [工場出荷時のデフォルトにセット] を実施してください。

iLO 6 ファームウェアバージョン 1.70 をご使用の場合:

SMASH-CLP からテキストベースの仮想シリアルコンソール表示のための vsp コマンドを実行すると、"VSP is disabled" が表示され、シリアルコンソール出力の表示が行われません。

vsp コマンドの代わりに以下のいずれかの方法で仮想シリアルコンソール表示を実施してください。

① SMASH-CLP を使用する場合

```
start /system1/oemNEC_vsp1  
または  
cd /system1/oemNEC_vsp1  
start
```

② IPMI I/F を使用する場合 (ipmitool での使用例)

```
ipmitool -I lanplus -C 17 -H <iLO IP address> -p 623 -U <iLO Account> -P <iLO Account Password> sol  
activate
```

● LLDPに関する注意事項

iLO Web インターフェースの[iLO Dedicated Network Port] - [LLDP]において、“Link Layer Discovery Protocol”を有効に設定すると、同一ネットワーク上に LLDP サポート機器が存在せず隣接機器のデバイス情報の取得ができない場合に「LLDP 情報が見つかりません」と表示され、これ以降“Link Layer Discovery Protocol”の有効・無効の切り替えができなくなります。

万が一、設定変更ができなくなった場合には、BMC Configuration Utilities から[Set to factory default] を実行し、工場出荷時のデフォルト設定に戻すことで解消できます。

● Server Platform Services (SPS) ファームウェアに関する注意事項

iLO 6 ファームウェアバージョン 1.70 未満の場合、Server Platform Services (SPS) ファームウェアバージョン 6.1.4.204.0 を適用すると、iLO Web インターフェースの[Firmware & OS Software] - [Firmware]での SPS ファームウェアバージョンが正しく表示されないことがあります。

iLO 6 ファームウェアバージョン 1.70 以降においては正しく表示されます。

また、システムユーティリティのFirmware Informationメニュー(*)では、正しいSPS ファームウェアバージョンをご確認いただけます。

(*)System Utilities > System Information > Firmware Information

● OS 起動時に検出されるネットワークポートやファイバーチャネルポートの接続エラーについて

OS 起動時に Agentless Management Service (AMS/smad) や ESM/PRO/ServerAgentService のサービスが開始されたときに、これらのサービスによってネットワークポートやファイバーチャネルの接続エラー(Link Failure)のメッセージが記録される場合があります。

これらのメッセージは装置の再起動中に発生した一時的な接続状態の遷移を iLO によってイベント検知されたことによるものです。これらのメッセージは無視して問題はありません。

● ネットワーク情報表示に関する注意事項

- 1) iLO6 ファームウェアバージョン1.74 以降の適用装置で、iLO Web インターフェースの「システム情報 > ネットワーク」において、ネットワークポート情報が表示されない場合があります。
OS のツール(Windows Server:ipconfig、Red Hat Enterprise Linux:ip addr など)を使用して確認してください。

- 正常時の表示例

↑ポート	MACアドレス	IPv4アドレス	IPv6アドレス	リンクステータス	チームブリッジ
1	84:0D:57:00:00:00	192.168.1.10	fe80::840d:5700:0000:0000	● リンクアップ	N/A
2	84:0D:57:00:00:00	192.168.1.10	fe80::840d:5700:0000:0000	● リンクアップ	N/A
3	84:0D:57:00:00:00	192.168.1.10	fe80::840d:5700:0000:0000	● リンクアップ	N/A
4	84:0D:57:00:00:00	192.168.1.10	fe80::840d:5700:0000:0000	● リンクアップ	N/A

- 事象発生時の表示例

↑ポート	MACアドレス	IPv4アドレス	IPv6アドレス	リンクステータス	チームブリッジ
------	---------	----------	----------	----------	---------

- 2) iLO6 ファームウェアバージョン 1.74 以降の適用装置で、iLO Web インターフェースの「システム情報 > ネットワーク」において、PCI スロットに同一型番の NIC が複数台搭載された場合、ネットワークポート情報内の IPv4 および IPv6 アドレスに「N/A」が表示される場合があります。
OS のツール (Windows Server: ipconfig、Red Hat Enterprise Linux: ip addr など) を使用して確認してください。

- 正常時の表示例

アダプター 2 - Intel(R) Ethernet Server Adapter I350-T4

SKU --
ロケーション PCI-E Slot 1
ファームウェア 1.3063.0
ステータス ● OK

ネットワークポート

↑ポート	MACアドレス	IPv4アドレス	IPv6アドレス	リンクステータス	チームブリッジ
1	04:00:00:00:00:00	192.168.1.104	fe80::0000:0000:0000:0000	● リンクアップ	N/A
2	04:00:00:00:00:00	192.168.1.105	fe80::0000:0000:0000:0000	● リンクアップ	N/A
3	04:00:00:00:00:00	192.168.1.106	fe80::0000:0000:0000:0000	● リンクアップ	N/A
4	04:00:00:00:00:00	192.168.1.107	fe80::0000:0000:0000:0000	● リンクアップ	N/A

アダプター 3 - Intel(R) Ethernet Server Adapter I350-T4

SKU --
ロケーション PCI-E Slot 2
ファームウェア 1.3063.0
ステータス ● OK

ネットワークポート

↑ポート	MACアドレス	IPv4アドレス	IPv6アドレス	リンクステータス	チームブリッジ
1	04:00:00:00:00:00	192.168.1.104	fe80::0000:0000:0000:0000	● リンクアップ	N/A
2	04:00:00:00:00:00	192.168.1.105	fe80::0000:0000:0000:0000	● リンクアップ	N/A
3	04:00:00:00:00:00	192.168.1.106	fe80::0000:0000:0000:0000	● リンクアップ	N/A
4	04:00:00:00:00:00	192.168.1.107	fe80::0000:0000:0000:0000	● リンクアップ	N/A

- 事象発生時の表示例

アダプター 2 - Intel(R) Ethernet Server Adapter I350-T4

SKU --
ロケーション PCI-E Slot 1
ファームウェア 1.3063.0
ステータス ● OK

ネットワークポート

↑ポート	MACアドレス	IPv4アドレス	IPv6アドレス	リンクステータス	チームブリッジ
1	04:00:00:00:00:00	192.168.1.104	fe80::0000:0000:0000:0000	● リンクアップ	N/A
2	04:00:00:00:00:00	N/A	N/A	● リンクアップ	N/A
3	04:00:00:00:00:00	N/A	N/A	● リンクアップ	N/A
4	04:00:00:00:00:00	N/A	N/A	● リンクアップ	N/A

アダプター 3 - Intel(R) Ethernet Server Adapter I350-T4

SKU --
ロケーション PCI-E Slot 2
ファームウェア 1.3063.0
ステータス ● OK

ネットワークポート

↑ポート	MACアドレス	IPv4アドレス	IPv6アドレス	リンクステータス	チームブリッジ
1	04:00:00:00:00:00	192.168.1.104	fe80::0000:0000:0000:0000	● リンクアップ	N/A
2	04:00:00:00:00:00	192.168.1.105	fe80::0000:0000:0000:0000	● リンクアップ	N/A
3	04:00:00:00:00:00	192.168.1.106	fe80::0000:0000:0000:0000	● リンクアップ	N/A
4	04:00:00:00:00:00	192.168.1.107	fe80::0000:0000:0000:0000	● リンクアップ	N/A

5) OSに関する注意事項

● Windows Server (R) OS ご使用時の注意事項

32 コア (物理コア) を超えるプロセッサを搭載している場合、Windows Server (R) 2019 でシステム情報 (Msinfo32.exe) ツールとタスクマネージャーの [パフォーマンス] タブに、プロセッサのソケット数やコア数、L1 キャッシュと L2 キャッシュのサイズが正しく表示されません。

Windows Server (R) 2019 サポート情報

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140106598>

iLO Web インターフェースまたは System Utilities では正しい CPU 情報が確認できます。

● NE3301-1841/1842/1842L/1844/1851/1851L/1853/1853L CPU ボード搭載時の RHEL 環境での Intel (R) QuickAssist Technology (Intel (R) QAT) についての注意事項

NE3301-1841/1842/1842L/1844/1851/1851L/1853/1853L CPU ボードを搭載した装置に RHEL をインストールすると、起動のたびに Intel (R) QAT の firmware の適用を促す下記のイベントがメッセージに登録される場合がありますが、無視してご使用ください。

例:

```
>Jan 4 15:04:47 localhost kernel: 4xxx 0000:e8:00.0: Direct firmware load for qat_4xxx_mmp.bin failed with error -2
>Jan 4 15:04:47 localhost kernel: 4xxx 0000:e8:00.0: Failed to load MMP firmware qat_4xxx_mmp.bin
>Jan 4 15:04:47 localhost kernel: 4xxx 0000:e8:00.0: Failed to load acceleration FW
>Jan 4 15:04:47 localhost kernel: 4xxx 0000:e8:00.0: Resetting device qat_dev0
```

● RAID 監視通報方式の変更について

VMware ESXi/ESX において、RAID 監視通報は SNMP Trap をご利用ください。
詳細は、下記の Web サイトをご確認ください。

・ NEC サポートポータル

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140108419>

● Linux OS ご使用時の注意事項

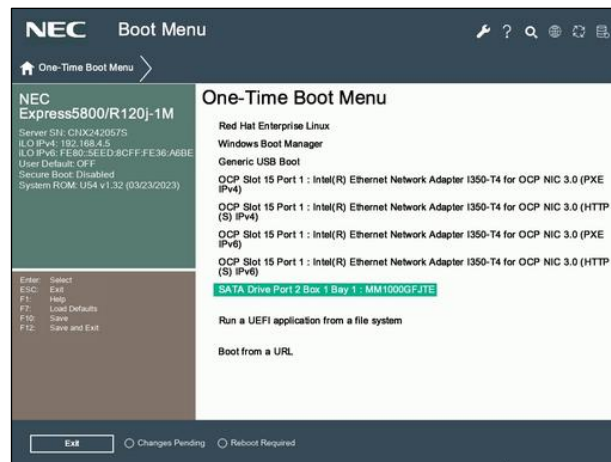
OS が自動的に認識する LOM やオプション NIC のデバイス名を使用してください。独自 udev ルールを追加する際、PCI アドレスを基準に NIC デバイス名を変更したり、固定したりする設定は行わないでください。
また、PCI アドレスを含む /dev/disk/by-path/配下のストレージデバイス名は使用しないでください。

PCI アドレスを基準にしたデバイス名を使った運用が必要な場合は、PCI スロットへのカード増設/抜去、および、CPU 構成変更を行わないでください。PCI バスのアドレス情報が変化し、PCI 接続のデバイス名に影響が出ることにより、ネットワークやストレージへのアクセスができなくなり、システムが正常に起動できなくなる場合があります。

● Red Hat (R) Enterprise Linux (R) ご使用時の注意事項

ワンタイムブートメニューから起動する場合、OS ブートマネージャー(例: Red Hat Enterprise Linux)を選択してください。

OS がインストールされた HDD や SSD などのブートデバイスを選択しても OS ブートしない場合があります。



ワンタイムブートメニュー画面

● Red Hat (R) Enterprise Linux (R) 8/9 (x86_64) 起動時の syslog に PCI 関係のメッセージが記録される

Red Hat (R) Enterprise Linux (R) 8/9 (x86_64) 起動時の syslog に PCI 関係のメッセージが記録される場合があります。

```
kernel: pcieport 0000:00:0c.0: can't derive routing for PCI INT A
kernel: pcieport 0000:00:0c.0: PCI INT A: not connected
kernel: pcieport 0000:00:0f.0: can't derive routing for PCI INT A
kernel: pcieport 0000:00:0f.0: PCI INT A: not connected
kernel: pcieport 0000:00:10.0: can't derive routing for PCI INT A
kernel: pcieport 0000:00:10.0: PCI INT A: not connected
```

PCI-Express からの割り込み処理の割り当てができない事を示すメッセージです。

当該機種では、メッセージが示す PCI デバイスは未接続のものであり、動作に影響はありません。

● VMware ESXi 7 または 8 をご使用時の注意事項

システム ROM バージョン 2.32 未満の場合、hostd.log に以下のメッセージが記録されることがあります。

```
Skipping interrupt routing entry with bad device number: 176...
```

システム ROM バージョン 2.32 では、この問題が修正されています。

● RHEL での“Open could not dequeue a packet”と“Closing, but controller still active”のメッセージが出力した場合の対処について

RHEL (Red Hat (R) Enterprise Linux (R)) 動作中、OS のシステムログに iLO ドライバや Agentless Management Service (AMS) による smad プロセスや amsd プロセスのメッセージ出力されることがあります。

本ログが大量かつ継続的に登録される場合は、iLO の再起動を実施してください。

iLO の再起動は、iLO Web インターフェースの[情報]-[診断]ページにて、[リセット]をクリックすることで実行できます。

■ メッセージ例

```
kernel: hpilo 0000:01:00.2: Open could not dequeue a packet
kernel: hpilo 0000:01:00.2: Closing, but controller still active
smad: Failed: ~
smad: Connected ~
```

6) 全般の機能に関する注意事項

● CPU ボード (NE3301-1841/1842/1842L/1844/1851/1851L/1853/1853L) ご使用時の注意事項

下記のCPU ボード搭載装置にWindows Server 2019を導入し、かつ、Starter Pack (S8. 80-006. 07)を適用した場合、Intel (R) QuickAssist Technology (Intel (R) QAT) ドライバーがインストールされません。

NE3301-1841 CPU ボード(20C/2GHz/Silver 4416+)
NE3301-1842/1842L CPU ボード(8C/2. 90GHz/Gold 5415+)
NE3301-1844 CPU ボード(28C/2GHz/Gold 5420+)
NE3301-1851/1851L CPU ボード(32C/2. 80GHz/Platinum 8462Y+)
NE3301-1853/1853L CPU ボード(56C/2GHz/Platinum 8480+)

詳細はWeb サイトに公開している Starter Pack (S8. 80-006. 07)の「インストールガイド (Windows Server 2019 編)」をご確認ください。

<https://jpn.nec.com/nx7700x/>

([技術サポート情報・ダウンロード] - [ドライバー、ユーティリティ関連の物件] のページの StarterPack の項を参照)

● NE3304-208/208L 10/25GBASE 接続LOM カード(SFP+ 2ch) ご使用時の注意事項

NE3304-208/208L 10/25GBASE 接続LOM カード(SFP+ 2ch)にて、Wake On LAN 機能を用いて本体装置の起動を行う場合、マジックパケットは本体装置をシャットダウンして、電源がオフの状態を受信するようにしてください。本体装置が稼働中にマジックパケットを受信した場合、その後本体装置がシャットダウンされ電源がオフに移行した後に、自動的に本体装置の電源がオンになってしまいます。

● NE3303-184/E184 SAS コントローラ ご使用時の注意事項

NE3303-184/E184 SAS コントローラを使用する場合、iLO Web インターフェースの[System Information] - [Storage] - [Storage Controller]の Status が“不明(Unknown)”と表示される場合がありますが動作に影響はありません。

● NE3301-1858 1U 水冷ヒートシンクご使用時の注意事項

NE3301-1858 1U 水冷ヒートシンクを搭載している場合、電源投入時に iLO Web インターフェースに下記のようなイベントが Integrated Management Log (IML)に記録され、水冷ヒートシンクの Cooling Pump のステータスが一時的に OK から Critical となることがあります。

起動後ステータスが OK となれば、正常に動作しているため無視してご使用ください。

例:

“Critical”, 0x0002, “Machine Environment” 0x003B, Liquid Cooling Module Failure (Pump CPU#, location System)”

または、

“Critical”, 0x0002, “Machine Environment” 0x003B, Liquid Cooling module Failure (Pump #, Location System)”

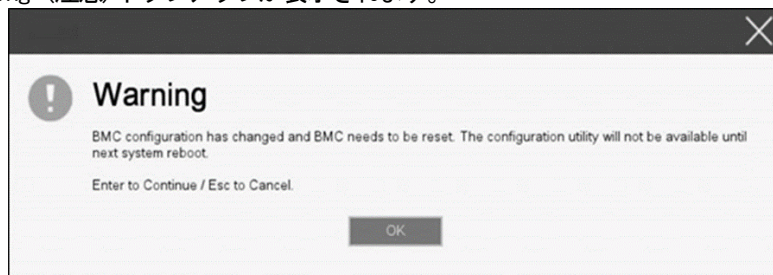
● システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項

システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での操作において、以下の(1)のポップアップが表示された場合は(2)以降の手順を厳守してください。

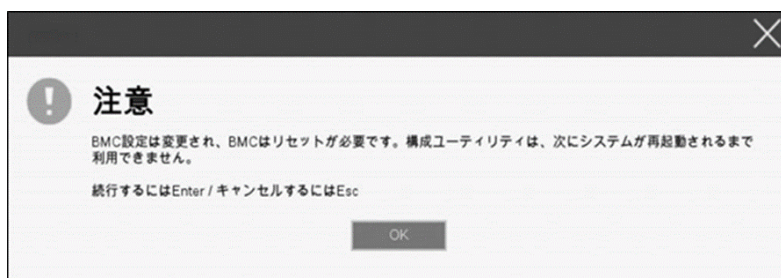
案内の手順に従って操作されない場合、「Memory Initialization Start」のメッセージでPOST 停止、あるいは対象サーバーに記録されている Serial Number、Product ID が消失する場合があります。

Serial Number、Product ID などが消失した場合の復旧方法は、メンテナンスガイド(運用編)の「5. トラブルシューティング 5.11 補足事項」の「Serial Number、Product ID が消失してしまった」の項目をご参照ください。

- (1) システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」において設定の変更を行うと、iLO の再起動を行うために、次の Warning（注意）ポップアップが表示されます。

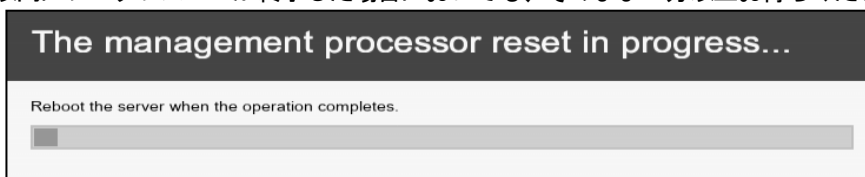


英語表示の場合

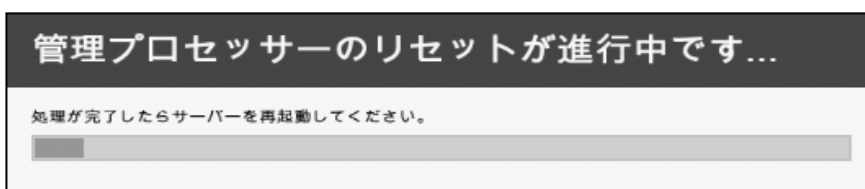


日本語表示の場合

- (2) 「OK」を押して進めます。
(3) iLO の再起動が開始され、次のプログレスバーが表示されます。
プログレスバーが表示されている状態で何も操作は行わず、必ず3分以上お待ちください。
もし、3分以内にプログレスバーが終了した場合においても、そのまま3分以上お待ちください。



英語表示の場合



日本語表示の場合

- (4) 3分以上経過後、以下を確認します。
- A. 本体操作時
対象サーバー前面のステータスランプが緑色で点灯していることを確認してください。
 - iLO が再起動中 : ステータスランプが緑色で点滅 (毎秒1回)
 - iLO の再起動が完了し正常動作 : ステータスランプが緑色で点灯
 - B. リモート (iLO Web インターフェース) 操作時
対象サーバーにログイン画面が表示されていることを確認してください。
- (5) (4)において、iLO の再起動の完了を確認後、<ESC>キーを複数回押して、システムユーティリティ画面に戻ります。
- (6) システムユーティリティの「Reboot the System」を選択してサーバーを再起動します。

● PCI カードの取り付けに関する注意事項

PCI カードを本装置に取り付ける際は、PCI スロットに差し込んだ後、PCI カード、またはPCI スロット付属のネジを用いてライザーカードに固定してください。

なお、工場出荷時に搭載されている PCI カードはネジで固定しています。

● Halted system due to SPDM (Security Protocol and Data Model) component authentication failure というメッセージが表示された場合の注意事項

システムの再起動を実行した場合、まれに以下に例示する SPDM 関連のエラーが発生して、OS が起動しないことや、電源投入時セルフテスト (POST) が完了しないことがあります。

例:

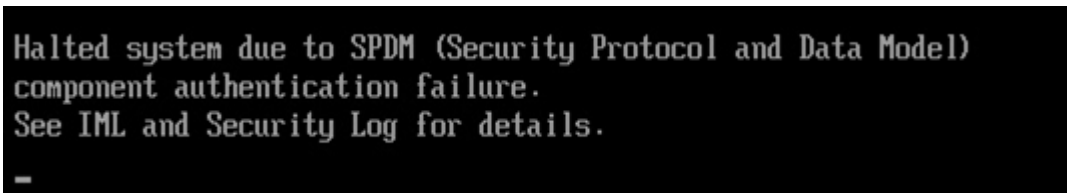
1. Halted system due to SPDM (Security Protocol Data Model) component authentication failure
2. System halted due to Security Protocol Data Model (SPDM) component authentication failure

この画面で停止した場合は以下のいずれかの方法で本装置を再起動してください。

- ・ iLO Web インターフェースより [Power & Thermal] - [Server Power] - [Virtual Power Button] の [Press and Hold] をクリック後、[System Power] が [OFF] になっていることを確認し、[Virtual Power Button] の [Momentary Press] をクリックしてください。

もしくは

- ・ 本装置の POWER スイッチを 4 秒以上長押しし、POWER ランプ消灯を確認してから、再度 POWER スイッチを押下してください。

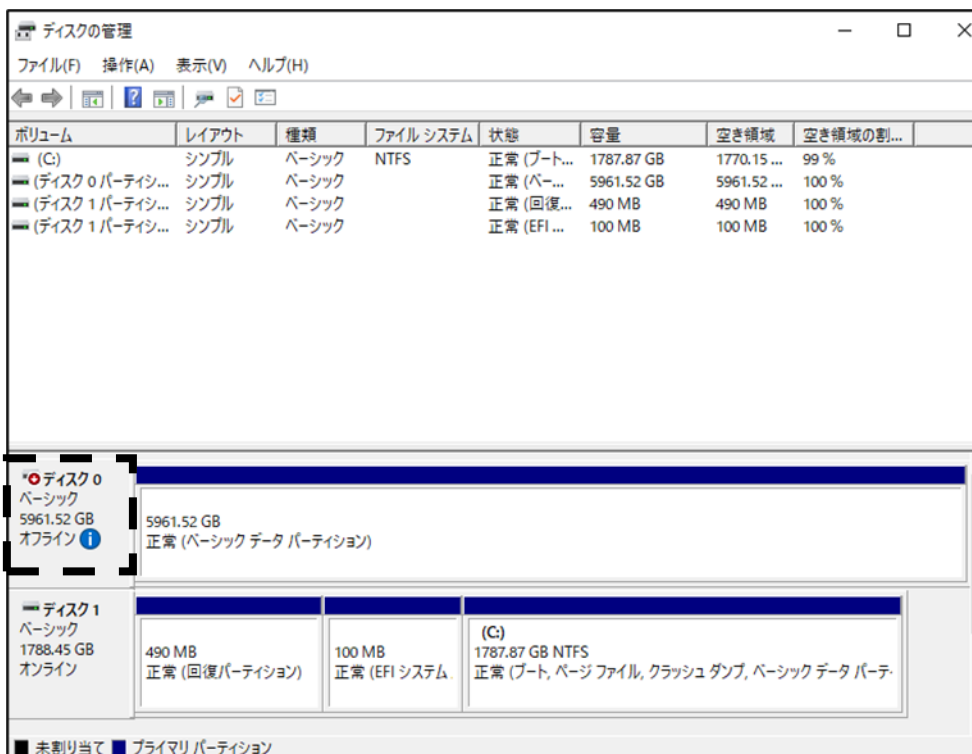


● NE3303-244/244L/246/246L RAID コントローラご使用時の注意事項

- ・ システム ROM バージョン 2.32 未満の場合、iLO Web インターフェースの One-button セキュア消去レポートの位置 (Location) 情報が実際のドライブの搭載スロットと異なることがありますが、One-button セキュア消去の動作は、正常に完了します。

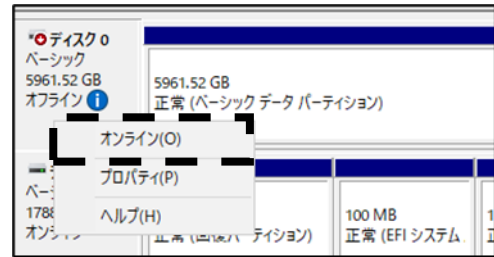
消去結果は「成功」の表示でご確認ください。

- ・ Windows 環境でファームウェア「03.01.23.072」を用いた NE3303-244/244L と NE3303-246/246L の混載している場合、もしくは NE3303-246/246L を 2 枚以上搭載している構成の場合、Windows 起動時に OS がインストールされていないディスク (データディスク) がオフラインになる場合があります。尚、データ消失などは発生しません。



本事象が発生した場合は、下記手順を参考に、「ディスクの管理」よりディスクをオンラインに変更してください。

[ディスクの管理からオンラインに変更する方法]



① オフラインになっているディスクの点線で囲った部分を右クリック

② オンラインをクリック

● サーバ診断カルテについて

サーバ診断カルテは、対象製品の稼働状況を記録し、月ごとに稼働状態の診断カルテを提供するサービスです。サーバ診断カルテの詳細は、Starter Pack 内の「サーバ診断カルテ セットアップガイド」を参照してください。

サーバ診断カルテの最新の情報および注意事項、制限事項については下記の Web サイトをご確認ください。サーバ診断カルテは最新版を使用することを推奨します。

■Windows 対応版

NEC サポートポータル (Windows 対応版)

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?&id=9010106809>

■商標について

EXPRESSBUILDER、ESMPRO は日本電気株式会社の登録商標です。

Microsoft (R)、Windows (R)、Windows Server (R)、は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel (R)、Xeon (R) は米国 Intel Corporation の登録商標です。

Linux (R) は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Red Hat (R)、Red Hat Enterprise Linux (R) は米国 Red Hat, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

VMware is a registered trademark or trademark of Broadcom in the United States and other countries. The term "Broadcom" refers to Broadcom Inc. and/or its subsidiaries.

その他、記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

NEC

2026 年 6 月 第 13 版



CBZ-059048-001-10